

くらしナビ ライフスタイル

主治医の一言 治療を左右



乳がん術後のリンパ浮腫で、今も手にサポートーが欠かせない和美さん

葉をかけられたり、説明が理解できずにつらい思いをした体験も寄せられた。

「父が5年前に前立腺がんに。告知の後、詳しい検査結果を聞きに行き、母がおずおずと質問すると、医師は『あなた方は僕にとって200分の1だ』と。200人の患者を診ているので、一人一人と

連載では、主治医との意思疎通がうまくいかず、「あなたには手を焼いていた」と言われながら転院した患者を紹介した。この記事を受けた反響として、医師から心ない言葉をかけられたり、説明が理解できずにつらい思いをしたりした体験も寄せられた。

「父が5年前に前立腺がんに。告知の後、詳しい検査結果を聞きに行き、母がねづねづと質問すると、医師は『あなたの方は業によって200分

がん社会はどこへ

第1部

迷える患者たち

反響特集
下

卷之三

連載「がん社会はどこへ」の第1部「迷える患者たち」（2月10日から6回）では、医師とコミュニケーションがうまく取れず、治療や自らの今後に不安を覚え、悩む患者の姿も取り上げた。反響の2回目は、医師に不信感を抱えるケースや、逆に信頼関係を築くことができた患者や家族の声を紹介する。

がん社会はどうへ 第一部　迷える患者たち

反響特集 下

医師に対して「病氣と闘う不安を理解してほしい」という声は、複数の患者やその家族から届いた。

「患者は、がんを告知され、その瞬間から音韻へ改り出

活をしない」「がんのことばかり考えない」。後に、夫(61)にも同じことを伝えていたことを知った。同時期に二つのがんが見つかった和美さんに、うつが発症することを心配してうそでなくだっこ。

ん。主治医は当初から、「治療に関しては患者も責任がある」というスタンスだった。その厳しい指導のおかげで今があると思っている。

●スタンスを共有

医師に対して「病氣と闘う不安を理解してほしい」という声は、複数の患者やその家族から届いた。

「患者は、がんを告知されたその瞬間から暗闇へ放り出された気分になります。私は身は尊敬できる医師に出会えて幸せでした」⁵⁵⁾ 葛飾区、上野和美さん（仮名、56）。7年前に乳がんの手術をして、その後わずか3カ月後に大腸が

ば乗り越えられません。医師には患者の命や人生を尊重してほしい。そして患者も、どう生きていいのかをしっかり見据えなければならぬのでしょ^う⁵⁶⁾ ⁵⁷⁾ 神奈川県藤沢市、女性（55）。

術をしたのは乳がんと同じ主治医。術後、今後についての不安を訴える和美さんに、主治医は「何か問題が起きた時に考えればいい」と言いながらも当面のアドバイスをくれた。「今までと変わらない生活」、「明日からでも仕事を行くこと」夫の帰りを待つ生活をしない「がんのことばかり考えない」。後に、夫(61)にも同じことを伝えていたことを知った。同時に一つのがんが見つかって和美さんに、うつが発症することを心配してたうえのことだった。

手術後の抗がん剤治療では副作用がつらく、主治医に訴えると「ではやめますか」と返ってくる。「やめるのもあなた次第。でも、やることを選択した以上はしつかりやり

続けることができた。和美さんは「うまく誘導されました」と笑う。

和美さんは病が分かる前から人工透析のクリニックでパートとして働いていた。「医師や看護師の助手として働く中で、自然と『患者力』が身についていたのかもしれません」。主治医は当初から、「治療に関しては患者も責任がある」というスタンスだった。その厳しい指導のおかげで今があると思っている。

進行していたS字結腸がんは、その後転移や再発もなく治療を終えた。乳がんに関しても、今は近所のクリニックで定期検査を受ける。「とりあえず主治医からは卒業しましたが、また何かあれば必ず戻ります」と笑顔を見せる。

うつが発症することを心配したうえのことだった。
手術後の抗がん剤治療では副作用がつらく、主治医に訴えると「ではやめますか」と返ってくる。「やめるのもあなた次第。でも、やることを選択した以上はしっかりやりましょう」と言われ、何とか

進行していたS字腸がんは、その後転移や再発もなく治療を終えた。乳がんに関しても、今は近所のクリニックで定期検査を受ける。「とりあえず主治医からは卒業しましたが、また何かあれば必ず戻ります」と笑顔を見せる。